# アジア侵略の一歩たる国政参加を阻止せよ!!

全ての戦争的労働者学生諸君!

11月15日の沖縄の国政参加選挙はいうまでもなく日本帝国主義の沖縄併合―第三次琉球処分、沖縄における反革命の完成を目指す巨歩である。沖縄の戦争的労働者は、すでに選挙ボイコット―投票拒否を目ざして、日帝帝国主義と結託した右翼労働組合官僚との戦争を開始した。我々は第三次琉球処分とおびやかしてきたように、日帝及び日本反革命同盟による沖縄の帝国主義の第二エネルギーを移行しながら遂行とこころ。最近では教育者員の反動制、政党の本土系列化、「沖縄県」への警察行政の一元化、自衛隊の派兵等々だ、今春の「国政参加特別措置法」の成立以降、文字通り雪崩をうって進んでいる。そして重大なことは、これらがすべて、沖縄人民の様々の抵抗を粉砕しつつ行われている点である。「国政参加」は決してこれにとどまらず行政的権限などは日帝―現在の「国政参加」選挙ここ、多様な人民の抵抗を吸い上げこの政治過程で決着する。一つの反革命と闘っていることを我々は銘記せねばならない。それは沖縄の帝国主義的解体の当面の実質なのだ。沖縄の以上のような状況に我々は「本土」のヨーロッパどうなのか。すなわちこの60年代安保闘争、「人管法戦」をとなえ、「真に国際主義的な反人管戦線」を叫んでいた。だが第二の三重闘のヨーロッパにおける「暴力主義と国際主義の質」なまさしくいま、「沖縄国政参加」に具体的にどう応えるのかということのうちで、再度試されている点なのだという点なのだ、すべての戦争主義なり欠落している。沖縄について「労働運動」（中核）たちの「国政参加選挙粉砕」（青解）だけ、スローガンのみ山ごもりで論理をうづけている。彼らにとっては、沖縄の国政参加は、人管法をたんに並列されるスローガンの問題にすぎないのだ。だが我々は「暴力主義と国際主義の内実獲得」をめざすヨーロッパ運動をこうした国際主義の内実獲得」をめざすヨーロッパ運動を同じく動員体のヨーロッパとして結合させることである。「国政参加」と入管法制の粉砕ヨーロッパ運動と共にして、「革命論」の破産内現前だ。だが、なぜ沖縄人民の闘争こそ自己「革命粉砕」をこの本土ごとくいんでいる陥穽だ。沖縄の最も先進的部分のスローガンにおいてそのえることでもって直接する点に日本破産はすでにベトナム革命への我々の力ずくのリーダシップ確実に破産してきたのだ。我々は「国政参加阻止」のヨーロッパを「沖縄に対応したヨーロッパ」とすべきだ。我々は「国政参加阻止」のヨーロッパを「沖縄に対応したヨーロッパ」とすべきだ。我々は15日決定的に違ずだったのだ。我々は15日選挙をこの本部に結集し二百名の部隊をもって本部通りなる出撃に向けた実力闘争ヨーロッパ坂き、戦線にこの数度にわたる沖縄における地区反戦ヨーロッパ体制の建設へ向けた闘争の総力を動員ドックにおけるマッセ・ストライキの実現へと闘ってきた。我々はこの沖縄自治闘争の提起と貫徹闘争をめぐるダルシャ・シーと政治的闘争を貫徹した闘争に日々きりとり決するものである。選挙への戦後反革命のめり込みを、沖縄人民の苦闘を、「本土並み」に収約することを許すものにはならないのだ、そこでこれは、端的にアジアと世界に向けて革命の実践ヨーロッパを切り開く沖縄の階級闘争の反革命の総点検隊を許すものとなるのだ。「沖縄国政参加選挙」は「議会主義への飲み込み」といった手法に対した事態をはるかにこえたものであることを銘記せよ!そうであるが故に我々は15日ゼネストにおける最大闘争の実現を貫徹し抜くことを主張してきたし、政治の共産主義とこれ闘争の中で、新たなる反革命と粉砕せんと若闘する最大闘争を起却」とを一掃すべきだと考えている諸君!今ここそ一切の呪縛を解き放ち、新たな運動体の実践への第一歩を自覚運動の展開を通して踏み出せ。

社会主義学生同盟全都協議会